

山内委員長記者会見のポイント
(第 262 回 (6 月 26 日) 郵政民営化委員会終了後)

1. 本日の委員会議事について

日本郵政グループから、日本郵政グループにおけるDXの取組状況について説明があった。

2. 委員会の質疑応答等について

- ・ 「DX関係ではグループ共通IDが大きなポイントとなるが、どの程度のIDを共通IDにどのように統合していくのか。」との質問に対して、

日本郵政から、「現在の日本郵便のIDを新しい共通ID基盤にまさに移行中。また、ゆうちょ銀行の通帳アプリ、かんぽ生命保険のマイページがあり、これらもデジタル上でのお客さまとの接点と考えている。各事業会社においてデジタル上で登録しているお客さまに対してアプローチしていき、共通IDに取り込んでいくことを考えている。」との回答があった。

- ・ 「日本郵政グループでIDを統一する場合に、ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険の金融関係では当然かなり厳しいセキュリティレベルが要求される。これに対して郵便業務のセキュリティは弱くて良いわけではないが、金融と差があると考えられるのではないかと、それをどう考えるか、また、統一のIDになったときに金融系と郵便系で使い勝手が変わってくるのかどうかという問題もあるのでは。」との質問、意見に対して、

日本郵政グループから、「ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険のような金融事業の場合、必ず担保しなければいけないセキュリティの領域があり、郵便局として一緒だから金融事業も郵便事業も同じようなセキュリティレベルで作り上げるということは全く考えていない。そこはしっかり検討し、対応していく。」との回答があった。

3. 記者との質疑模様

- ・ (資料の中で、グループ共通IDとの紐付けに「お客さま同意の取得」とあるが、ここについて特に質問はなかったのか。顧客同意は結構難しいのではないかと印象を受けたが、委員長はどのようにお考えか、と問われ、) 顧客同意は非常に難しいし、個人情報保護の上で顧客情報をどこまで取得するかも難しいと考える。また、顧客に対するインセンティブのようなものが必要となるのではないかと、との質問もあり、当然そういうことは考えているが詳細は決まっていない、とのことであった。

- ・ (郵便の方のセキュリティレベルと金融のレベルは違って当然のようなお話であったが、全体のセキュリティとしてはそれで大丈夫なのか、との心配も一方で出ると思うが、そのあたりはどのような方針か、と問われ、) セキュリティレベルの低い方に合わせることはあり得ない。金融で要求されるセキュリティレベルは確保されなければいけない。そのときに、郵便についての使い勝手等をどうするのか、ということが今後の課題とのことであった。